

古典文法トレーニング 長文課題 品詞分解と現代語訳

大問五（出典：『堤中納言物語』）

◎品詞分解（非活用語は初出のみで、名詞は基本的に非表示。同色の助詞は同内容であることを示す。）

口つきも愛敬係助カ四・用接助づきて、清ナリげなれど、齒黒めつけねカ下二・未打消・已接助（願使）ば、いと世カ四づかず。化粧サ変したらば、清ナリげにありナリぬへし。心憂クくもあるかなラ変・体接助（願使）とおぼゆ。かくまでやつしたれど、見クにくくなどはあらク、いと様ナリことに、あざやかにナリけだかく、はれやかなるさまぞあたらしき。練色格助（体修）の綾クの桂一襲、はたおりめの小桂一襲、白クき袴マ四を好カ上みて着マ四たまへり。この虫クを、いとよく見クむと思ハ四ひて、さし出サ四でて、「あなめでたや。日格助ラ四にあぶらるるが苦クしければ、こなたさまカ変に来るなりけり。これクを一つも落サ四とさハ四追ハ四ひおこせよ。童尊べ」とのたまへば、突カ四き落マ四とせば、はらはらと落タ上二つ。白クき扇格助（同格）の、墨黒カ変に真名サ変の手習用存統・体ひしたるをさし出サ四でて、「これハ四に拾マ四ひ入れよ」とのたまへば、童ラ四べ取り出マ四づる。皆君達シクも、あさましう、災難ラ変あるわたりクに、こよなくもあるかなラ変と思ハ四ひて、この人ハ四を思ハ四ひて、いみじと君シクは見係助マ上たまふ（作し臣）（※1）。

※1：「君」は君達のうちの一人「右馬の助」を指す。周囲が姫君に批判的な見方をする中、右馬の助だけは肯定的に捉えている。なおこの場面では、君達は全員女装して虫愛づる姫君の様子を垣間見ている。

◎現代語訳（↓『ステップアップノート30 古典文法トレーニング』参照）